

<日本の未来と田舎の役割>

私たち夫婦は、今年（2022年）71歳と64歳。ファイナル・プロジェクト（あいむほーむ再生）を佐那河内という場所に託すため、そのプロジェクトの意義とこれからの時代について考えてみました。

これから日本が辿る道

日本は、これからどのような国になっていくのでしょうか。世界は、今、一握りの人たちに支配されていて、その世界がどの方向に進むかを考えれば、日本という国が、どちらに向かうかも、おおよその検討がつきます。今、グローバリズムとナショナリズムが拮抗していますが、世界を統一したい人たちは、当然のことながら、グローバリズムの方向に向かい、AIやデジタル技術を使った個人監視システムを構築するでしょう。世界を一つの国として統合し、通貨も統一デジタル通貨、もしかしたら、言語まで統一される可能性もあるかも知れませんね。私たち一人一人が、必要なもの、欲しいものを向こうから提示してくれ、自宅に居座ったまま、即日配達される日が来ています。ビジネスは、国籍不明の大企業が、世界中で、私たちの日常生活のほとんどを提供し、資本家、政治家、企業が一体となってマネーゲームを展開します。日本も、これからの大企業は、実態がどこの国のものか分からないまま、私たちの生活に入り込んできます。それが、グローバリズムと呼ばれるものです。日本も当然、この渦に巻き込まれながら、やがて、世界に飲み込まれる日も、来るのかも知れません。

自治ということ

さて、世界や日本がその方向に進んだ時、真っ先に犯されるもの、それは、私たちの自由です。これは、民主主義とかの政治システムとは関係なく、世界や国を誰が支配するかで決まります。それが誰かによって、自由の度合いは多少異なるかも知れませんが、どんどん自由度が少なくなる方向に進ことは間違いないでしょう。これから身を守ってくれるものを、「自治」と呼んでいいと思います。一番最小の単位は、個人という自治になりますが、国家と個人の間には、多くの組織があり、それぞれに自治を持つべきです。国家が、個人の自由を奪うならば、個人の自治を守ってく

れるのは、その間に立つ「組織」です。個人のすぐ上には、「家族」という組織があり、その上には、村や町、都道府県などがきます。この間に立つ組織が、どちら側（国側か個人側か）に立つかで、個人の自由度が大きく影響を受けるのです。自由の要求を国に対して行うとき、一人で叫ぶよりは、家族みんなで、それより村中みんなで叫ぶ方が、力は強くなります。つまり、自分が所属する地域が、どれだけの自治権を持つかは、個人の自由にとって、とても大きな意味を持ちます。

自治にとって大切なもの

個人や村が自治を守る上で、大切なものがあります。多くの人は、それは経済力だとも思いませんが、それよりも人間にとって大切なものがあります。それは、「幸せ」と「健康」ではないかと思います。医療ビジネスが国家と結びつく以上、私たちの健康は、損なわれていきます。医療ビジネスには、「病気」が必要だからです。それが、医学が発展すればするほど病気が増えている理由です。外部（村外、県外、国外）のビジネスが栄えれば栄えるほど、住人の裕福度は低下し、幸せ度も低下します。外部のビジネスに頼らざるを得ないもの（例えばインターネットなど）もありますが、「食」などは、地産地消が最も可能なものです。そして、「幸せ」にとって、欠かせない大切なもの、それは、人と人の結びつきではないでしょうか。「和」という字があります。これは、日本の国を表す字でもあります。人々の結びつきを表す字でもあります。この字は、米（のぎへん）を輪になってみんなで口にしていく形を表しています。それほど、人の和にとって、「食」は大事なのです。みんなで同じことを体感することで共感が生まれるそうですが、その中でも「食」は大事で、「共食」という言葉もあります。家庭や自治体が、「自治」を守る上で、最も大切な「幸せ」と「健康」という二つのH（ハッピー&ヘルシー）を、私たちは、いつも意識している必要があります。

これからの時代に自治体や個人がやること

世の中が、こういった方向に進み、私たちが、自治を守ることが大切な時代に、私たちは、何をすべきでしょうか。そして、自治体には、何を求めるべきでしょうか。

まず、私たち個人がすべきこと、からです。

一番大切なことは、まず、知ることから始まります。なぜ、私たちは生きづらくなっているのか。なぜ私たちは、健康になれないのか。なぜ、精神的障害が増え、家族の崩壊が起こっているのか。なぜ、生活が苦しいのか。なぜ、貧富の格差が広がるのか。これらには、「真実」や「事実」があるのですが、私たちは、それを知らされていません。世の中を良くしていくためには、まず、一人ひとりが、知ることから始めなければいけないのです。

「健康」が大切なら、なぜ、「不健康」になるのかを学ぶ必要があります。最も大きなものの一つは、「食」ですが、それを知れば、無農薬の野菜がなぜ必要なのかも分かります。添加物がいっぱい入っているものを食べ続ければ、体がどうなるかも分かります。なぜ、原発がよくないのか、なぜ、電磁波（5Gなど）が良くないのかも、分かります。知らない（＝学ばないと）分かりません。

「幸せ」は、どうですか。私たちは、幸せになるためには、お金が必要だと思っているのですが、実は、お金が私たちの不幸を作っているということに気づいていません。お金がなければ、今の不幸と犯罪のほとんどは、なくなると考えて良さそうです。私たちが、不健康になったり、不幸せになったりするのには、不健康や不幸せを生む社会システムに依存しているからです。不健康な食を提供するコンビニを始めとする流通システムや農業システム、お金を使うことを当たり前と思わせる常識など、冷静に見れば、その原因は分かります。

では、どうすればその悪循環システムから脱却できるか、ですね。

一番いい方法は、安全な食の確保と消費をストップするためのリサイクルから始めることです。

食の安全のためには、野菜を無農薬で育てること、肉もオーガニック（抗生物質や成長ホルモンを使わず、飼料も安全なものを使う）、天然の魚を中心の食にする、ジビエなどもいいですね。そして、食品加工も添加物を排除すること。これは、市販の製品では難しいので、出来る限り自分で作るか、信頼できる人が作ったものを食べる、ということになります。

リサイクルは、別の意味では、シェアシステムを作って行くということです。子供のおもちゃなどは、親や祖父母が、子供に新品のものを買ってやりたいと思うのですが、少し使ったら捨てられる運命にあります。これなどは、地域で、共有（シェア）すればいいのです。家具や食器などもいらぬものを他の人が使う。車や家のシェアは、ウーバーやAir B&B などとしてシステム化されています。農業もシェアすることができます。CSA（コミュニティ・サポータード・アグリカルチャー）では、野菜や米を欲しい人たちが、農家と直接契約して地産地消をするのです。この他にも、シェアやリサイクルは、考えればいくらでも可能で、私たちの消費を大きく削減してくれるはずです。これは、国や企業側は、積極的ではありませんね、当然ですが。こういったことは、個人で進めるよりは、自治体が哲学を持って進めていくのが、一番いいように思います。

私たちのプロジェクトは、こういったことを目指したいと思いますが、私たちの力は、小さく限られています。出来る範囲で、やっていくということになります。でも、これをいろんな人との結びつきで進めていくことができれば、これは、大きな力になるはずです。都市や大きな町にこれを期待することは難しいように思うので、これは、小さな村の大きな役割になるのではないかと思います。「あいむほーむの再生」が、その一助となることができれば、大変幸せです。医者数が一番多い徳島県で、医者に頼らない人間が一番多い村ができたら、素晴らしいですね。